

令和7年度 島根県技術士会 新年例会 式次第 (01/20 案)

日時：令和8年1月31日（土）13:00～
場所：ニューウェルシティ出雲
〔ハイブリッド方式（会場参加およびWeb配信）〕

- | | | |
|------------------|----|------------------|
| 1. 開会挨拶 | 会長 | 石田弘至 13:00～13:06 |
| 2. 本日の進行について | | 研究部会 13:06～13:08 |
| 3. 研究報告（共同研究）の発表 | | |

- (1) 水資源・水環境研究分科会 13:08～13:24
苦田ダム視察報告 田中秀典

苦田ダム（岡山県）を現地視察し、ラピリンス型自由越流洪水吐と鞍部ダムを組み合わせた一体設計について報告する。

- (2) 庭園文化研究分科会 13:24～13:40
出雲流庭園と「赤」 林秀樹

赤色は太陽の力、邪気を祓う魔除けの色、緑色の補色である。出雲の人々は、緑濃い常磐木の庭を赤色で彩り庭を引き立たせた。赤砂を敷き詰めることを願望し、二酸化鉄で赤錆びた砂を安来市の田頬川で採取し、遠く大社町まで運び込んだ。

家がとこしえに栄える願い込めた常磐木の庭は、秋冬となると落葉樹の庭のような木漏れ日もなく、暗く陰鬱である。赤色で庭を引き立たせ、無病息災、五穀豊穣を願った出雲の庭づくりの技を紹介する。

- (3) 鉄道遺構研究分科会 13:40～13:56
平成7年度活動報告～関係人口からのアプローチ～ 岸根真志

鉄道遺構研究分科会は、今福線研究分科会として発足して以来16年目を迎えたが、この間一貫して地域と連携して様々な活動を行ってきた。

近年、「観光以上、定住未満」として地域と連携する関係人口の可能性が期待されているところであるが、当分科会の活動はその役割と可能性を示唆している。今年度の活動を報告するとともに今後の課題について考える。

- (4) 生物多様性研究分科会 13:56～14:12
令和7年度活動報告～ビオトープ調査ほか～ 細澤 豪志

生物多様性研究分科会の活動テーマは、“コウノトリ・トキの餌資源”、“島根半島”である。今年度、“コウノトリ・トキの餌資源”については、雲南市大東町において大月谷ビオトープの餌生物調査、および、ビオトープの維持管理活動を実施した。“島根半島”については、「火山活動に由来する特徴的な地形と、河川の働きで形成された堆積地形、およびそれらに依存する生態系の理解」を目的とし、日御崎周辺、及び出雲市北部の山城跡・鳶ヶ巣山での現地視察を実施した。

- 【休憩】 14:12～14:28

(5) 島根県B級遺産研究分科会 14:28~14:38
木コンクリート橋 山形・島根・北海道での活動 松浦寛司

本年度は木コンクリート橋に関する活動として、10月22, 23日に山形県の2橋（谷柏橋、古峯橋）について行った橋梁詳細調査の報告、12月6日に平田町の東コミュニティーセンターで開催された「浜田橋の歴史と構造」に関する説明会の報告、更に、同月7~9日に北海道で開催された木コンクリート橋のワークショップについて報告する。

(6) エネルギー多様性研究分科会 14:38~14:54
核融合研究施設への視察報告 井上数夫

本年度の取り組みとして、愛知県土岐市に所在する自然科学研究機構（NINS）核融合科学研究所（NIFS）を往訪し、核融合研究設備を視察した。

近年、エネルギー政策は転換期を迎え、次世代エネルギーとして核融合技術への期待が高まっている。核融合技術は太陽を地上で再現する技術であり、燃料の豊富さ、CO₂を排出しないこと、暴走反応を起こさないことなど、多くの利点がある。視察により、核融合技術の現状と課題についてとりまとめ意見交換を行った。

(7) DX研究分科会 14:54~15:10
令和7年度活動報告 三好恵美・花本孝一郎

DX研究分科会の参加者は、建設コンサルタント関係者、施工関係者、行政関係者など様々な立場の技術者が集まっている。今年度の活動は、それぞれの立場におけるBIM/CIMの取組み事例の紹介を通じて意見交換を行った。本発表では、その事例の一部の紹介を行う。

(8) 潜水橋利用者研究分科会 15:10~15:26
潜水橋と利用する人々の暮らし 佐々木慶一

潜水橋分科会は、潜水橋の構造面調査（ハード）に限らず、歴史面調査（ソフト）も交えた『住民生活を切り口とした研究』をテーマとしている。潜水橋と地域生活の関わりについて深掘りし、管理の省力化や地域資産としての活用方法を考察することを目指している。

活動初年度は、斐伊川本川の下流域3橋（島村橋、井上橋、山田橋）について、現地踏査と歴史調査の一部を行った。分科会の設立～現地踏査や歴史調査の結果、及び今後の活動予定を示すことで、斐伊川上流域や支川、県内外の他河川への展開、全国組織との交流等、研究活動が次に繋がるよう案内する。

4. 研究報告（個人研究）の発表

(9) 日本草創期の広域測量と地図

吉田 薫 15:26～15:38

富士山・大山・高千穂峰を結ぶと巨大な二等辺三角形が形成される。三山には一連の神話・伝承があるので、当時も位置関係を把握するような広域測量の技術と地図（枝図と推定）があったのではないか。

(10) 手解体による古民家空家の資源化

守山基樹 15:38～15:50

～「空家」という課題を資源に転換するビジネスモデルの構築～

本発表では、島根県で実施した国土交通省「空き家対策モデル事業」の実践報告を行う。古民家を対象に、職人の手仕事による「手解体」で良質な建材を回収・再利用し、廃棄物処理費用の削減と所有者の負担軽減を図るビジネスモデルを構築した。実証実験の結果、建材の地域内循環や、愛着ある家を取り壊す所有者の心理的抵抗感の緩和といった成果を確認した。本モデルは、空家を単なる「廃棄物」から「地域資源」へと転換し、環境負荷低減と地域経済循環の両面から課題解決に寄与するものである。

(11) 南海トラフ地震と平安時代に出雲で発生したM7地震

長嶺元二 15:50～16:02

出雲の住人には、自分たちには立派な神様がついている、という思いがどこかにある。しかし、出雲でも平安時代にM7地震が発生しており、南海トラフ地震の発生も近づいている。今あらためて地震に対する危機意識を啓発したい。

(12) 生成AIを活用した研究報告書作成の効率化について

田中秀典 16:02～16:14

生成AIを活用し、構成案作成や文章化をAIが補助することで、研究分科会の視察報告書作成の効率化と品質向上を図った事例を紹介します。

(13) 「超小型原子炉 4S炉」に対する新たな第三者評価出現

井上祥一郎 16:14～16:26

～第54回日韓技術士国際会議 in 新潟での韓国側への情報発信～

2011.3.11 東京電力福島第一原子力発電所事故の後、日韓技術士会議のエネルギーを含む分科会での「原発」議論で、韓国側は技術対象として前向き、日本側は避けて通るとの印象がある。第47回釜山大会でのアメリカ生まれ日本育ち「トリウム熔融塩炉」紹介に続き、筆者には3人目となる「日本産安全炉超小型原子炉4S炉」の異色の第三者評価者「認知科学者 苦米地英人」出現を韓国側へ情報発信した。また、業界内では軋轢を招いた「公益確保責務」の好事例と評価できる開発者服部の原発冷却事故回避策を、唯一県庁所在地にある島根原発で実施する提案の要否を技術士皆さんに伺いたい。

(14) 山陰道に関する年寄り技術者の心配ごと

村上 英明 16:26～16:38

山陰道は地元民の宿願の道路である。30年に渡り、幾つもの事業主体が点線状に建設して来た高規格の道路を繋いで、一本の高速道路にしようとしているものである。現在、8割がたが開通して来たが、そのほとんどが無料区間のため、誘発交通や中国道・山陽道から転換して来る大型の長距離輸送車の運転手が疲れて、交通事故の原因になるのではないかと、心配でならない点が幾つかある。聞いてください。

5. 中国本部からの報告事項

田中秀典、渡部修 16:38～16:48

6. 閉会挨拶・事務連絡

研究部会、事務局 16:48～16:58

時間配分

	開始	発表	質疑	交代	
1. 開会挨拶	13:00	0:06			13:06
2. 本日の進行について	13:06	0:02			13:08
3. 研究報告(共同研究)の発表					
(1) 水資源・水環境研究分科会	13:08	0:12	0:02	0:02	13:24
(2) 庭園文化研究分科会	13:24	0:12	0:02	0:02	13:40
(3) 鉄道遺構研究分科会	13:40	0:12	0:02	0:02	13:56
(4) 生物多様性研究分科会	13:56	0:12	0:02	0:02	14:12
(5) 島根県B級遺産研究分科会	14:12	0:12	0:02	0:02	14:28
【休憩】	14:28	0:10			14:38
(6) エネルギー多様性研究分科会	14:38	0:12	0:02	0:02	14:54
(7) DX研究分科会	14:54	0:12	0:02	0:02	15:10
(8) 潜水橋利用者研究分科会	15:10	0:12	0:02	0:02	15:26
4. 研究報告(個人研究)の発表					
(9) 日本草創期の測量と地図	15:26	0:08	0:02	0:02	15:38
(10) 手解体による古民家空家の資源化	15:38	0:08	0:02	0:02	15:50
(11) 南海トラフ地震と平安時代に出雲で発生した M7 地震の関係	15:50	0:08	0:02	0:02	16:02
(12) 生成 AI を活用した研究報告書作成の効率化について	16:02	0:08	0:02	0:02	16:14
(13) 「超小型原子炉 4S 炉」に対する新たな第三者評価出現	16:14	0:08	0:02	0:02	16:26
(14) 山陰道に関する年寄り技術者の心配ごと	16:26	0:08	0:02	0:02	16:38
5. 中国本部連絡事項	田中理事	16:38	0:10		16:48
6. 閉会挨拶・事務連絡	研究部会、事務局	16:48	0:10		16:58